

学会彙報

〔昭和四十六年度〕

◎日蓮宗教学研究発表大会

第二十四回日蓮宗教学研究発表大会は、十月二十二日・二十三日の両日にわたり、東京池上の日蓮宗務院において、開催された。

本学からは、室住一妙学頭が「仏と成ることの意味について」という論題で、発表をおこなった。

◎林教授、「望月賞」を受賞

本学の図書館長林是幹教授は、十月二十二日に宗務院で開かれた日蓮宗教学研究発表大会の席上、第二回望月賞を受賞された。

望月賞は、故望月敏厚博士の遺志により設けられたもので、昨年立正大学の宮崎英修教授が、第一回の受賞をしている。

尚、今回の林教授の受賞は、永年にわたる「檀林教学」

についての研究が認められたものである。

◎第三回 海外視察派遣教授渡印

本学の海外視察派遣教授として、昭和四十七年一月十三日に、長谷川寛慶師と秋山智孝師の両教授は、羽田を出発しインド・ネパールの仏蹟をめぐり二月二日に帰国した。特に今回は「日蓮宗インド・ネパール聖地特別巡拝団」が組織され、インドのカピラ城発掘隊を激励する目的もあり、名誉団長松井大周師を始め、若杉見龍師・沖原成行師等の本学同窓生を含め、一行十八名であった。

—— お 願 い ——

◎本誌は「会員制」となっております。会費は年額千円です。発行のつど同封の振替用紙をご利用の上、ご送金願います。

◎お知り合いの方々の中で、まだ入会されていない方にはぜひ御入会下さるようお勧め下さい。よろしくご協力の程、お願い申し上げます。